

2023年 4月27日

2022年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 日野団塊世代広場

代表者・役職名 氏名 理事長 増永 廣幸

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

アクティブシニアのための地域活動支援事業(新型コロナ対策としてIT利用推進中)

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

団塊世代の知識・経験を生かす仕組みを一緒に考えませんか・・・との市の呼びかけにより応募した有志により発足した団体です。設立:平成19年6月 会員数:25名。シニア世代の人たちが、「生きがい」「働きがい」「地域がい」をもって、明るく健康で地域に根を生やした生活が送れる仕組みと施策を企画・運営しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

地域活動に関心はあるが実際には行動するに至っていないアクティブシニアの相談窓口および地域活動参加につなげる場所を提供していますが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出自粛が叫ばれる中、シニアの外出頻度や人との関わり合いが減少しています。このような状況下において、従来の活動に加えてIT利用により事業活性化に取り組んでいます。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

当団体の事務所(平山台ひろば)を拠点に、以下のIT利用を推進します。

① 活動手法の見直し

・Zoom・Line 利用/・オンラインサロンの開設

② シニアに対するIT教育の実施

・PC・スマホの使い方教育/・Zoomの勉強会の実施、

③ リモート会議ができるIT環境の構築

・Zoom、Line 等のIT環境充実/・オンラインサロン対応のためのホームページの再構築、

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

<結果>・リモートによる打合せ・講演会・イベント・・・12回/年以上実施/・オンラインによる市民活動参加・・・2回/年以上実施/・シニアに対するIT教育・・・6回/年以上実施

<成果>新型コロナにより活動に影響を受けましたが、デジタル化を推進することにより活動への参加者数を1604→1801名と12%増加させることが出来ました。

<効果>コロナ禍にもかかわらずアクティブシニアが当団体の活動に参加し「生きがい」や「働きがい」「地域がい」を見つけ、地域社会活性化に寄与することが出来ました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

<課題>

コロナも終息しつつあります。デジタル化の推進で効果が出ているので、これまでの活動をベースに更なる改善を加えて普及させていく必要があると考えます。

＜今後の展望＞

シニア世代を新しい生活様式への移行をサポートすることにより、地域社会に新しい活動の場所を見つけられることを期待する。またアクティブシニアが当団体の活動に参加し「生きがい」や「働きがい」「地域がい」を見つけ、地域社会活性化に寄与する。このことが、到来する高齢化社会に立ち向かう原動力となると信じます。

7. 参考資料：プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

以下の資料を提供します。

- ① 2022 年度日野団塊世代広場の活動紹介
- ② 活動写真 2 枚

